



すぎ 杉っ子

令和7年3月7日 発行
学校だより 第11号
射水市立小杉小学校
TEL 0766-55-1055
E-mail kosugi-e@imizu.ed.jp

今年度を振り返って

校長 杉 高 浩

令和6年度も残すところあとわずかとなりました。今年度も『「強いからだ」「創る力」「愛のこころ」を兼ね備え、たくましく生きる子供の育成』を学校教育目標とし、重点目標を『笑顔・あいさつ・思いやりがあふれる楽しい学校づくり ～笑顔で登校 笑顔で下校～』と定めて「子供、保護者、地域、教職員にとって Well-being(ウェルビーイング)な学校」を目指して取り組んできました。その取組について児童、保護者、教職員による評価も1学期末と2学期末の2回行い、取組のさらなる改善も行ってきました。先日、第3回学校運営協議会を開催し、その中でも教育評価を取り上げ、今年度の学校と運営協議会の評価も行い、次年度に向けての方向性も話し合ったところです。

少し、Well-being(ウェルビーイング)について考えてみたいと思います。元々は、戦後、WHOで健康の定義として使われていたそうで「良好な状態」「心身ともに健康で、持続的に幸福な状態」という意味だそうです。富山県でも



この Well-being(ウェルビーイング)を成長戦略の中心に位置付け、一人一人が、様々な人や社会との“つながり”の中で、日々“自分らしく”生きていることに満足でき、心豊かに、幸せをずっと実感できる富山県を目指しているところです。

ちなみに“Happiness(ハピネス)”は、感情的で一瞬の幸せで“Well-being(ウェルビーイング)”は持続する幸せなのだそうです。この「幸せ」ということについての研究者である慶應義塾大学大学院の前野隆司教授によると、誰もが Well-being(ウェルビーイング)に満ちあふれるために、以下の「幸せの四つの因子」を伸ばすことを推奨されています。

- ① 「やってみよう」因子…やりがいや強みをもち、主体性が高いこと
- ② 「ありがとう」因子…つながりや感謝、利他性や思いやりをもつこと
- ③ 「なんとかなる」因子…前向きかつ楽観的で、ポジティブであること
- ④ 「ありのままに」因子…独立性と自分らしさを保つこと

本校では、この1年間、学びや集団活動等を通して、「感謝の心」「自己肯定感」「自己有用感」などを高めるように努めてきました。次年度は上記の「幸せの四つの因子」を参考にし、より一層「目標や夢をもち、ワクワクを見い出す」、「自分に対しても他者に対してもポジティブな見方をする」ことなどが多く出現する教育環境や教育活動を創り出したいと思います。これからも、多くの人とのつながりを通して、地域、学校をよくしていきたいと思う“杉っ子”を育てられるよう、これからも皆様とともに歩んでいきたいと思ひます。

「小杉と戦争」～地元住民から学ぶ～

2月26日(水)に三ヶ地域振興会のご協力により、戦時中の生活について地元の本江さんと板山さんから聞く、5年生のいのちの授業を行いました。本江さん、板山さんから当時の学校のグラウンドは食料を確保するために畑になっていたことや、1945年8月1日の富山大空襲の様子、臨時病院として負傷者を受け入れていた小杉小学校の校舎が煮沸消毒していた部屋から出火して全焼してしまった話等を聞きました。二人のお話を聞いた5年生児童は「二度と戦争を起こしてはいけない」という思いを強くしました。



NHK



KNB

6年生 今までありがとう集会



3月4日(火)に5年生が中心となって「6年生 今までありがとう集会」が行われました。「6年生に感謝の気持ちを伝え、最高の集会にしよう！」のスローガンで始まった集会では、各学年がそれぞれの方法で6年生への感謝の気持ちを伝えることができました。また6年生からは在校生の感謝の気持ちに対し、お礼の言葉と「縦割り清掃ファイル」のプレゼントをいただきました。

6年生の皆さんは、中学校へ進学しても、持ち前の明るさで困難を乗り越え、自分の目標に向かって頑張ってくれることを期待しています。

今回の集会を企画・運営してくれた5年生が主体性をもって協働的に取り組む姿に頼もしさを感じました。4月からの小杉小学校のリーダーとして一人一人が活躍してくれることを期待しています。

幼児教育・小学校教育の接続を目指して Part2

11月22日(金)の2年生と小杉東部保育園との交流に引き続き、1年生が2月18日(火)に小杉西部こども園と、5年生が3月6日(木)にあおい幼稚園、大江保育園と交流を行いました。

1年生は小杉西部こども園の年長児さんと体育館で歌や運動、「猛獣狩り」や「仲よしリレーゲーム」を通して交流しました。

5年生はあおい幼稚園、大江保育園の年長児さんと「校内オリエンテーリング」を一緒に行い、音楽室で楽器当てクイズや普通教室で宝探し等を楽しみました。

今回の交流で、各園の年長児さんは小学校に入学することへの不安が少しでも和らいだのではないかと思います。

次年度は園児・児童の交流、職員の交流に留まることなく、よりよい成長の連続となるよう、架け橋期のカリキュラムについても、園の先生方と一緒に検討していきたいと思ひます。



<2月18日:小杉西部こども園との交流>



<3月6日:あおい幼稚園、大江保育園との交流>